Osaka University Knowledge Archive

Title	災害常襲地域における生活防災の構造と実践手法に関する研究
Author(s)	石原, 凌河
Citation	大阪大学, 2014, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/34404
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

Osaka University

様式３

論　文　内　容　の　要　旨

氏　名　（　　石原　凌河　　）	
論文題名	災害常襲地域における生活防災の構造と実践手法に関する研究

論文内容の要旨

東日本大震災以降、地域で受け継がれてきた災害の教訓や知恵を再評価し、教育やまちづくりを通して伝承する実践事例が求められている。しかし、地域で受け継がれてきた災害伝承をそのままに災害時に行動に移すのでは、想定外の災害に対処できないばかりか、社会経済状況が変わってきた現代においては不適切な行動もあり得る。そこで、災害時の避難行動そのものではなく、人間が災害をやり過ごしてきた経験や知恵を日常生活に見いだし、それを伝承するという、生活防災の実践として捉えるべきであると考える。ここでいう生活防災とは、防災・減災とは直接的に関係しない活動が、結果的に防災・減災につながるという考え方をさす。生活防災の理念については提唱されているものの、生活防災の構造や、実践手法についての蓄積は十分ではない。特に、生活防災を防災的観点だけではなく、平常時の観点からの有用性を示すことにより、平時における活動として裾野を拡げることが期待でき、地域計画の発展にも寄与できると考えられる。

そこで本研究では、生活防災の構造を把握するとともに、地域で生活防災を実践するための手法を提案することを目的とした。

本論文は以下に示す８つの章から構成されている。

第１章では、研究の背景・目的、研究の仮説、研究の構成、関連する語句を整理し、本研究における定義を記した。

第２章では、本研究と関連する既往研究を整理し、本研究が対象とする研究課題を明らかにした。

第３章では、地域特性や、地域環境を示しながら、研究対象地域の位置づけを明らかにした。また、本研究で用いた調査の方法として、アンケート調査の概要と単純集計の結果、ヒアリング調査の概要について記した。

第４章では、地域内で受け継がれている過去の自然災害の伝承・被伝承の内容をアンケート調査から抽出し、得られた内容をKJ法で分類し、その質的特性について生活防災の観点から把握した。

第５章では、生活防災の構造として、生活防災を構成する要素を明らかにするとともに、共分散構造分析を用いて、生活防災と災害伝承、防災意識、地域への態度等との関係を明らかにした。

第６章では、学校での生活防災の実践手法として、生活防災を題材とした防災教育教材を開発・実践し、その有用性や課題について検討した。

第７章では、地域における生活防災を実践手法として、災害伝承を活用した災害教訓誌を作成し、その有用性や課題について検討した。

第８章では、終章であり、本研究の要約と、本研究で得られた知見をまとめるとともに、災害常襲地域において生活防災を実践する意義について考察した。

様式７

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏　名　（　石原　凌河　）			
論文審査担当者		（職）	氏　名
	主 査	（准教授）	松村　暢彦
	副 査	（教　授）	加賀　有津子
	副 査	（教　授）	山本　孝夫
	副 査	（教　授）	渥美　公秀（人間科学研究科）
	副 査	（教　授）	矢守　克也（京都大学防災研究所巨大災害研究センター）

論文審査の結果の要旨

本論文は、過去に自然災害の大きな被害を受け、今後も大きな被害が受けると想定されている災害常襲地域における防災計画手法として、防災・減災とは直接的に関係しない活動が、結果的に防災・減災につながるという理論である「生活防災」に着目し、その構造を明らかにするとともに、地域や学校における実践手法を提案し、その効果を実証的に検証している。そして、生活防災に立脚した防災計画の理論的枠組みや、生活防災を実践する意義について考察している。得られた結果を要約すると以下の通りである。

（１）生活防災を構成する要素として、「地域での生活防災」、「資材の生活防災」、「家庭での生活防災」の３つを明らかにしているとともに、生活防災の取り組みが、防災の観点からだけではなく、地域への態度の観点からの有用性を指摘している。

（２）生活防災と災害伝承との関係として、災害伝承は、防災意識、防災・対策・行動に直接影響を与えないものの、地域での生活防災を通じて、防災意識・対策・行動に影響を与えることを指摘している。

（３）学校における生活防災の実践手法として、生活防災を学習するための教材と学習プログラムを開発し、それを中学校で展開している。そして、本教材の実践を通して、生徒が日常生活をより良く改善していく主体的な態度の醸成につながる点で有用であることを示している。

（４）地域における生活防災の実践手法として、災害伝承を活用した災害教訓誌の開発と実践を行っている。また、災害教訓誌を閲覧した地域住民からの感想をテキストマイニングによって分析し、取り組みの有用性や課題について検討している。その結果、災害教訓誌の取り組みは、生活防災の重要性、特に災害当時の生活や文化についての理解につながった点で特に有用であることが明らかにされている。

（５）これらの知見を踏まえて、総合的な地域課題の解決のために、生活防災を実践することへの有用性や課題について考察し、自主防災組織等の地縁組織を基盤とした防災活動を担う組織が、生活防災を主軸として地域活動を展開することへの可能性について示唆している。

以上のように、本論文は、災害常襲地域において培われた防災に関する地域知と専門家の技術知とをマネジメントする取り組みとして、生活防災に着目して理論的枠組みを明らかにするとともに、生活防災の実践手法の確立に貢献する知見を得ており、ビジネスエンジニアリングの発展に寄与するところ大である。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。